

人間文化創成科学研究科・博士後期課程・人間発達科学専攻  
社会学・社会政策領域

博士論文提出要件・審査基準

**博士論文提出要件**

1. 当該課程に3年以上在籍し、所要の授業科目について10単位以上を修得すること。あるいはその見込みがあること。
2. 社会学・社会政策領域の研究・教育ステージ制の要件をすべて満たすこと。あるいはその見込みがあること。

**博士論文提出要件（早期修了者）**

1. 当該課程に1年以上在籍し、所要の授業科目について10単位以上を修得すること。あるいはその見込みがあること。
2. 社会学・社会政策領域の研究・教育ステージ制の要件をすべて満たすこと。あるいはその見込みがあること。
3. 大学院博士後期課程在学中におこなった研究活動が、当該分野において高く評価されること。
4. 原則として主任指導教員が、研究活動をとくに優秀と認め、早期修了の候補者として推薦する者。
5. 専攻会議で早期修了に値すると認められた者。

**博士論文審査基準**

**1. テーマ設定の適切性・明確性**

研究テーマが、社会学・社会政策分野の学問的水準や研究動向、社会的な要請などを理解したうえで適切に設定され、明確に提示されていること。

**2. 当該分野の学問的水準の理解と研究の位置づけ**

当該のテーマ、及び研究方法論にかかわる学説史や先行研究に十分な目配りと評価がなされ、これを踏まえてみずから取り組む研究の社会学・社会政策領域における意義、可能性と限界に自覚的であること。

**3. 研究の独創性・発展可能性**

テーマ設定、研究方法論、研究知見、及び論文全体の論理構成などにおいて独創性があり、今後の研究における展開可能性を有すること。

**4. 論文構成・論理展開・論述の妥当性**

論文の全体構成に過不足がなく、細部にわたり明確で妥当な論述がなされていること。テーマ設定、研究資料の提示と分析、考察、結論に至る論理展開が首尾一貫しており、妥当なものであること。

**5. 研究倫理の自覚と遵守**

研究テーマの設定、文献や資料の使い方、調査の進め方、調査資料の提示法や分析法、論文化など、研究過程のすべてにわたり、法の侵犯や人権侵害、あるいは研究者としての倫理に著しく反する言動があってはならない。研究の第一義的な意義は、人間の生と生活、環境に生じた問題の解明とその改善にあることに自覚的であること。

**6. 若手研究者として独り立ちしうる力量の証明**

以上の点を総合的に鑑みて、当該論文が学界の研究水準に照らして十分にその評価に耐え、かつ新たな知の体系構築に重要な貢献をなすものであること。別言すれば、当該論文が、学界で独り立ちしうる研究者としての力量を示すものであること。

人間文化創成科学研究科・博士後期課程・人間発達科学専攻  
社会学・社会政策領域

研究・教育ステージ制

2014年度以降入学生に適用（2014年3月14日制定，2016年3月28日改訂）

I 研究ステージ

【Rステージ1】～3P

3P以上獲得した段階で研究プレゼンテーション1を行い，合格点を取ること。

（博士論文のテーマに関する先行研究の整理と評価、自分の研究テーマの位置づけを発表する。主任指導教員と副指導教員計2名以上が参加して合否判定を行う。2万字程度にまとめたペーパーを用意し，報告時間30分・質疑応答60分程度。）

【Rステージ2】～8P

8P以上獲得した段階で研究プレゼンテーション2を行い，合格点を取ること。

（博士論文の全体構想を示し、目的・方法・結論の方向性、準備状況と以後の作業予定などについて発表する。主任指導教員と副指導教員など計3名以上が参加して合否判定を行う。報告時間30分・質疑応答60分程度。）

【Rステージ3】～11P

8P以上獲得し，研究プレゼンテーション2で「合」となったら，博士論文執筆準備を始めてよい。ただし課程修了までに11P獲得の目処が立っていること(内7Pは論文のポイントとする)。

〔論文ポイント〕

学術著書(単著／共著) 3～5P

国内外学会誌論文(査読つき) 3～5P

編著内論文 2～4P

学内紀要等(査読つき) 2P

科学研究費報告書，同人学術誌等(査読なし) 1P

〔その他のポイント〕

国際学会発表 2P

国内学会発表 1P

研究プレゼンテーション合格 1P

学術振興会特別研究員採択 3P

学会賞等の受賞 1～3P

※ 共著、共同発表の場合は、first/second以下の別や、分担状況に応じた点数を与える。共通性の高い共著論文(もしくは国内学会発表)が複数存在する場合は、そのうち1件のみを1ポイントとして認定することがある。科研費報告書などに共著で分担執筆している場合は、分量や内容によってポイント認定の可否を判断する。

II 教育ステージ

当面はステージ制は考えないが、以下の2点を課程修了までの要件とする。

①コースワークの充足＝博士後期課程の必要単位数(10単位)の充足 6P

②Rステージ3に達したら、課程修了までに、大学での授業担当を想定した「シラバス作成」と「模擬授業」の実施を義務付ける。 3P

2010年度～2013年度入学生に適用（2010年1月24日制定）

## I 研究ステージ

### 【Rステージ1】～3P

3P以上獲得した段階で研究プレゼンテーション1を行い、合格点を取ること。

### 【Rステージ2】～8P

8P以上獲得した段階で研究プレゼンテーション2を行い、合格点を取ること。

### 【Rステージ3】～11P

8P以上獲得し、研究プレゼンテーション2で「合」となったら、博論執筆準備を始めてよい。ただし課程修了までに11P獲得の目処が立っていること(内7Pは論文のポイントとする)。

学術著書(単著/共著)	3～5P
国内外学会誌論文(査読つき)	3～5P
編著内論文	2～4P
学内紀要等(査読つき)	2P
科研費報告書, 同人学術誌等(査読なし)	1P
国際学会発表	2P
国内学会発表	1P
研究プレゼンテーション	0/1P
学振特別研究員採択	3P
RA 経験	1P
学会賞等の受賞	1～3P

※ 共著、共同発表の場合は、first/second以下の別や、分担状況に応じた点数を与える。

## II 教育ステージ

当面はステージ制は考えないが、以下の2点を課程修了までの要件とする。

①コースワークの充足＝博士後期課程の必要単位数(10単位)の充足 6P

②Rステージ3に達したら、課程修了までに、大学での授業担当を想定した「シラバス作成」と「模擬授業」の実施を義務付ける。 3P